

IBM



Everyplace Client

(Pocket PC 2002 および Windows Mobile 2003 用)

本書は、IBM® Everyplace® Client バージョン 5.0.1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM
Everyplace Client
for Pocket PC 2002 and Windows Mobile 2003

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

第 1 章 始めに	1
前提条件	1
デスクトップの要件	1
デバイスの要件	2
サーバーの要件	2
Everyplace Client のインストール	2
DMS ソフトウェア配布ジョブによる Everyplace Client インストールの完了	3
InstallShield を使用した Everyplace Client のインストール	4
インストールの正常終了の確認	7
関連資料	8
第 2 章 Everyplace Client の構成	9
Everyplace Client の構成の準備	9
Everyplace Client の構成	10
同期設定の構成	10
Mobility Client の構成	11
Mobility Client パスワードの変更	12
Everyplace Client セキュリティーの構成	13
メモリーの構成	13
第 3 章 Everyplace Client の使用	15
Everyplace Client ユーザー・インターフェースについての理解	15
カテゴリの操作	17
カテゴリの新規作成	18
カテゴリの編集	18
カテゴリの削除	18
ショートカットの個別設定	19
ショートカットの追加	19
ショートカットの除去	19
テーマの選択	19
アプリケーションの同期	20
初期同期	20
カテゴリ・レベルの同期の実行	21
アプリケーション・レベルの同期の実行	21
スケジュール済み同期の構成	22
E メール操作	22
カスタム・フォルダーの同期	22
ネットワーク・プロファイルの操作	22
ネットワーク・プロファイルの作成	23

ネットワーク・プロファイルの編集	23
ネットワーク・プロファイルの削除	23
データの置換	24
ソフトウェア更新の確認	24
管理用タスクの完了	24
トレースの操作	25
データベース同期の構成	26
オフライン・フォームの操作	27
Sametime Connect の使用	28
Sametime Connect の要件	29
Sametime Connect の用語	29
Sametime Connect 接続設定の構成	30
Sametime Connect へのログイン	30
他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージの送信	31
ユーザーまたはグループの管理	31
オンライン状況の変更	32
現在のオンライン状況メッセージの編集	32

第 4 章 Everyplace Client のアンインストール	33
デスクトップからの Everyplace Client のアンインストール	33
デバイスからの Everyplace Client のアンインストール	33

第 5 章 トラブルシューティング	35
戻りコードの定義	35
Personal Information Management (PIM) 同期の戻りコード	36
エラー・メッセージ	39
Everyplace Client のエラー・メッセージ	39
WebCache のエラー・メッセージ	44
Mobility Client のエラー・メッセージ	46

付録 A. XHTML + Voice の使用	55
--	-----------

付録 B. 著作権および商標	57
著作権	57
商標	57

索引	59
---------------------	-----------

第 1 章 始めに

IBM® Everyplace® Client はクライアント・サイド・アプリケーションであり、これを使用して、デバイスとデータベースの間でデータの同期をとり、オフライン・ホーム・ページにアクセスし、デバイス管理を実行し、デバイス上にソフトウェア更新を受信できます。

Everyplace Client では、以下の機能をサポートします。

- E メールおよび個人情報管理プログラム (PIM)
- データベース同期
- オフライン・ブラウザおよびフォーム
- Device Manager サーバー (DMS) のアクセス
- Everyplace Client ユーザー・インターフェース
- Sametime® Connect のアクセス
- サーバー開始アクション
- Mobility Client
- Workplace Client Technology, Micro Edition (WCTME)
 - Extension Services for WebSphere® Everyplace (ESWE)
 - Mobile Information Device Profile (MIDP)

この章では、以下のトピックについて説明します。

- 前提条件
 - デスクトップの要件
 - デバイスの要件
 - サーバーの要件
- Everyplace Client のインストール
- 関連資料

前提条件

Everyplace Client をインストールして実行する前に、ご使用の環境が以下の前提要件を満たしているかどうか確認してください。

- デスクトップの要件
- デバイスの要件
- サーバーの要件

デスクトップの要件

Everyplace Client をインストールする前に、デスクトップのソフトウェアが以下の要件を満たしているかどうかを確認してください。

- Microsoft® ActiveSync® バージョン 3.5、3.6、3.7、または 3.7.1
- オペレーティング・システム:

- Windows® 2000
- Windows XP

注: Everyplace Client インストール・プログラムが、ご使用のデバイスに合う正しいバージョンであることを確認してください。 Windows Mobile™ 2003 デバイス向け Everyplace Client を Pocket PC 2002 デバイスにインストールすることはできません。また、Pocket PC 2002 デバイス向け Everyplace Client を Windows Mobile 2003 デバイスにインストールすることもできません。

デバイスの要件

Everyplace Client をインストールする前に、デバイスが以下の要件を満たしているかどうかを確認してください。

- Pocket PC 2002 または Windows Mobile 2003
- Pocket Internet Explorer (IE)
- Pocket Microsoft® Outlook
- Pocket Microsoft Personal Information Management (PIM) アプリケーション

注: サポートされるデバイスを使用していることを確認するには、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

サーバーの要件

組織の技術サポート担当者によりユーザー ID がセットアップされている IBM WebSphere Everyplace Access サーバーにアクセスします。WebSphere Everyplace Access サーバーの設定についての詳細は、WebSphere Everyplace Access インフォメーション・センターを参照してください。

注: ご使用の WebSphere Everyplace Access Server ソフトウェアはバージョン 5.0 でなければなりません。ご使用の WebSphere Everyplace Access Server の詳細については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

Everyplace Client のインストール

Everyplace Client をご使用のデバイスにインストールするには、次の 2 つの方法があります。組織の技術サポート担当者から送られた Device Manager サーバー (DMS) ソフトウェア配布ジョブを使用してデバイスに Everyplace Client をインストールするか、または Everyplace Client インストール・パッケージをダウンロードし、InstallShield を使用して Everyplace Client をインストールします。このいずれかの方法で行う必要があります。デバイス上の同一インストールに両方の方法を使うことはできません。

注: DMS ソフトウェア配布ジョブを使用してデバイスに Everyplace Client をインストールすることをお勧めします。組織の技術サポート担当者が、DMS ソフトウェア配布ジョブを使用して Everyplace Client をデバイスに既にインストールしていることがあります。組織の技術サポート担当者が、DMS ソフトウェア配布ジョブを使用して Everyplace Client をデバイスに既にインストールしている場合は、DMS ソフトウェア配布ジョブによる Everyplace Client インストールの完了を参照して、インストールを完了してください。

い。組織の技術サポート担当者が、DMS ソフトウェア配布ジョブを使用しないで Everyplace Client をデバイスにインストールしている場合は、InstallShield を使用した Everyplace Client のインストールを参照し、InstallShield を使用して Everyplace Client をインストールしてください。デバイスに Everyplace Client をインストールしたら、インストールの正常終了の確認の説明に従って、インストールが正常に終了したことを確認できます。

Everyplace Client のインストールについての詳細は、以下のセクションを参照してください。

- DMS ソフトウェア配布ジョブによる Everyplace Client インストールの完了
- InstallShield を使用した Everyplace Client のインストール
- インストールの正常終了の確認

DMS ソフトウェア配布ジョブによる Everyplace Client インストールの完了

Everyplace Client のデプロイを完了するには、ご使用のデバイスで以下の手順を実行する必要があります。

注: このセクションの手順を完了する前に、前のバージョンの Everyplace Client をデバイスからアンインストールする必要があります。以下の手順を実行する前にデバイスから前のバージョンの Everyplace Client を除去しないと、次のメッセージが表示されます。

「エージェント・プログラムの内部エラーが発生しました。処理を続行できません。エージェント・プログラムは終了します。」

このメッセージが表示されたら、「OK」を押してインストールを終了し、前のバージョンの Everyplace Client をデバイスからアンインストールして、以下の手順を再度実行してください。

Everyplace Client インストーラーのダウンロードの開始

デバイスへの Everyplace Client インストーラーのダウンロードを開始するには、以下の説明を参照してください。

1. ActiveSync または Wireless 接続でネットワークに接続されていることを確認します。ダウンロードでは大量のデータが転送されるので、使用可能な最高速の接続を使用してください。
2. デバイスのすべての自動パワーオフ設定を非活動化します。
3. WebSphere Everyplace Access ポータルにログインします。
4. 上部のドロップダウン・メニューから「モバイル・セットアップ」を選択します。
5. 「モバイル・セットアップ」ドロップダウン・メニューの直下のドロップダウン・メニューから「Everyplace Client インストーラー」を選択します。
6. 「Everyplace Client インストーラー」アイコンを押します。
7. 「はい」を押して、次のいずれかをダウンロードします。
 - ceagent.armv4.cab - Windows Mobile 2003 デバイス
 - ceagent.arm.cab - Pocket PC 2002 デバイス
8. 「ダウンロード後にファイルを開く」を選択します。

9. 「エージェントの構成」が表示されたら、パスワードを入力して、「**接続**」を押します。
ダウンロードが開始します。ダウンロードは、接続速度により数分かかることがあります。
10. 「IBM Everyplace Client がインストールされました」というメッセージが表示されると、ダウンロードは完了です。「**OK**」を押します。
11. 通常の操作では、Everyplace Client が初期設定され、作動可能になります。
Everyplace Client が自動始動しない場合は、起動できます。「**スタート**」、「**プログラム**」、および「Everyplace Client」アイコンの順に押します。

InstallShield を使用した Everyplace Client のインストール

ご使用のデスクトップおよびデバイスに Everyplace Client ソフトウェアをインストールして構成するには、以下の手順を参照してください。

注: Everyplace Client をインストールする前に、以下の項目を確認してください。

- 前のバージョンの Everyplace Client がご使用のデバイスにインストールされている場合は、デバイスのソフト・リセットを実行して、Everyplace Client のインストール時に Everyplace Client コンポーネントが操作されないようにします。
- デバイス上でソフト・リセットを実行した後で、Microsoft ActiveSync 接続によって、デバイスがデスクトップに接続されていることを確認します。
- Everyplace Client インストール・プログラムが、ご使用のデバイスに合う正しいバージョンであることを確認してください。Windows Mobile™ 2003 デバイス向け Everyplace Client を Pocket PC 2002 デバイスにインストールすることはできません。また、Pocket PC 2002 デバイス向け Everyplace Client を Windows Mobile 2003 デバイスにインストールすることもできません。

1. **WEA_PPC_Installer.zip** をデスクトップに unzip します。
WEA_PPC_Installer.zip は、WebSphere Everyplace Access のサポート・ページからダウンロードした **5.0.1_WEB_WEA_PPC.zip** ファイルにあります。
2. ご使用のデバイス・タイプに応じて **PPC2002** フォルダーまたは **PPC2003** フォルダーを開き、**setup.exe** をダブルクリックします。
3. 「**Everyplace Client の InstallShield ウィザードへようこそ (Welcome to the InstallShield Wizard for Everyplace Client)**」パネルで「**次へ**」をクリックすると、Everyplace Client のインストールを続行します。

注: デスクトップに前のバージョンの Everyplace Client がインストールされていた場合は、「**選択したアプリケーションとそのコンポーネントをすべて完全に除去しますか? (Do you want to completely remove the selected application and all of its components?)**」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、以下を実行します。

- a. 「**OK**」をクリックして現行バージョンの Everyplace Client を除去するか、または「**キャンセル**」をクリックしてインストールを終了します。最新バージョンの Everyplace Client をインストールする場合は、前のバージョンの Everyplace Client を除去する必要があります。
- b. 「**OK**」をクリックすると、InstallShield により前の Everyplace Client コンポーネントがすべてデスクトップからアンインストールされます。「**保守完了**」パネルの「**完了**」をクリックします。

- c. インストール・プロセスを再始動して、Everyplace Client をインストールします。
4. 「設定言語の選択」パネルから、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。
5. 「Everyplace Client の InstallShield ウィザードへようこそ (Welcome to the InstallShield Wizard for Everyplace Client)」パネルで「次へ」をクリックすると、Everyplace Client のインストールを続行します。
6. ソフトウェア・ライセンスのご使用条件に同意する場合は、「はい」をクリックします。

注: 「いいえ」をクリックすると、インストール・プログラムは終了します。

7. デバイスのソフト・リセットでは以下の点に注意してください。
 - デバイス上で既にソフト・リセットを実行し、ActiveSync 接続を再確立している場合は、「OK」をクリックし、Everyplace Client のインストールを続行します。
 - デバイス上でソフト・リセットをまだ実行していない場合には、以下の手順に従います。
 - a. クレードルからデバイスを取り外します。クレードルを使用していない場合には、デバイスを ActiveSync から切断します。
 - b. ソフト・リセットを実行します。
 - c. ActiveSync 接続を再確立します。
 - d. 「OK」をクリックして、Everyplace Client のインストールを続行します。
8. 組織の技術サポート担当者が WebSphere Everyplace Access Server にバージョン 5.0 のサーバー・ソフトウェアをインストールしたことを確認している場合は、「OK」をクリックします。

注: サーバー・ソフトウェアのバージョンを組織の技術サポート担当者に確認していない場合は、確認してから「OK」をクリックしてください。

9. Everyplace Client をインストールするデスクトップ上のロケーションを「宛先ロケーションの選択 (Choose Destination Location)」パネルから指定して、「次へ」をクリックします。

注: デフォルトのロケーションを変更するには、「表示」を選択し、Everyplace Client をインストールしたいロケーションを選択します。

10. インストールするコンポーネントを「コンポーネント」パネルから選択し、「次へ」をクリックして Everyplace Client のインストールを続行します。直前のパネルに戻るには「戻る」をクリックし、Everyplace Client インストールを終了するには「キャンセル」をクリックします。

注: 前のバージョンの Everyplace Client を最新バージョンの Everyplace Client にマイグレーションする場合、この画面で事前選択されているコンポーネントは、前のバージョンの Everyplace Client でインストールされた内容によって異なります。コンポーネントを選択したままの状態にすると、Everyplace Client は、最新バージョンのコンポーネントをインストールする前に、前のバージョンのコンポーネントをアンインストールします。事前選択されているコンポー

ネットを選択解除し、選択解除したままの状態にすると、Everyplace Client はこれらのアイテムをアンインストールしますが、最新バージョンのコンポーネントはインストールしません。

Everyplace Client には、以下のコンポーネントが含まれます。

- E メールおよび Personal Information Management (PIM): Lotus® Domino® サーバーおよび Microsoft Exchange Server とのデータの同期がとれます。
 - DB2® Everyplace: DB2 Everyplace データベースからご使用のデバイスへのデータの同期がとれます。
 - DB2 Everyplace Synchronization Client
 - DB2 Everyplace サンプル・アプリケーション
 - オフライン・ブラウザおよびフォーム - オフライン操作にオフライン・フォームと内容をキャッシュに入れることができます。
 - ソフトウェア更新: Device Manager サーバーからソフトウェア更新を受信できます。
 - サーバー開始アクション: サーバー開始アクションによって、サーバーとデバイスの間でデータの同期が取れます。SIA をサポートするアプリケーションを実行している場合、サーバーは自動的にデバイスとの同期を開始します。例えば、デバイスで Sametime Connect にログインしているときに、メッセージが送られてきた場合、サーバーは SIA を実行してデバイスと同期を取り、ユーザーがメッセージを参照できるようにします。SIA はバックグラウンドで実行され、デバイス上での構成は必要ありません。
 - Sametime Connect: Sametime Connect サーバーに接続できます。
 - Mobility Client - デバイスからエンタープライズ・ネットワークへのセキュア・ネットワーク接続を確立できます。
 - Workplace Client Technology, Micro Edition (WCTME) - このプラットフォームを使用して、既存のエンタープライズ・アプリケーションを、デスクトップ・コンピューター、モバイル・デバイス、およびパーベイシブ・デバイスなどのサーバー管理対象クライアント・デバイスに拡張します。
 - Extension Services for WebSphere Everyplace (ESWE) - Extension Services for WebSphere Everyplace には、接続、切断、または略式に接続されたデバイス上でのサービスの開発、デプロイメント、および管理をサポートする Open Services Gateway Initiative (OSGi) をインプリメントする Java 対応ランタイムが用意されています。
 - Mobile Information Device Profile (MIDP) - Connected Limited Device Configuration (CLDC) と組み合わせて使用すると、Mobile Information Device Profile には、携帯電話および携帯情報端末 (PDA) などのリソース限定デバイスでのモバイル・アプリケーションの Java ランタイム・サポートが実現されます。
11. オプション: 選択したコンポーネントに前提条件となるソフトウェア・コンポーネントがある場合、「次へ」をクリックすると、Everyplace Client によってこれらのコンポーネントが自動的にインストールされます。コンポーネントを選択しなおすには、「戻る」をクリックします。
12. オプション: 事前に選択されているコンポーネントを選択解除すると、選択解除したコンポーネントのリストが表示されます。Everyplace Client によってこれ

らのコンポーネントをアンインストールする場合は「次へ」をクリックし、コンポーネントの選択をしない場合は「戻る」をクリックします。

13. デスクトップおよびデバイスへのファイルのコピーを開始するには、「ファイル・コピーの開始」パネルで「次へ」をクリックします。Everyplace Client インストール実行中のパネルが表示されます。

注: 「次へ」をクリックすると、「デフォルトのアプリケーション・インストール・ディレクトリーを使用して「Sync Client」のインストールと他の保留中のインストールを実行しますか?」(Install "Sync Client" and other pending installations using the default application install directory?)というメッセージが表示されます。デフォルトのディレクトリーにアプリケーションをインストールするには「はい」を、別のディレクトリーを選択するには「いいえ」を、インストールを終了するには「キャンセル」をクリックします。

14. インストール・プログラムがファイルのコピーを完了すると、「このインストールを完了するために追加のステップが必要かどうかを、モバイル・デバイス画面で確認してください (Please check your mobile device screen to see if additional steps are necessary to complete this installation)」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックして、デバイス上で以下の手順を完了します。
15. デバイスで、「ユーザー ID」フィールドに Everyplace ユーザー ID を入力し、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドにそのパスワードを入力します。情報を入力した後、「OK」を押します。

注: デバイスに入力する Everyplace ユーザー ID とパスワードは、Everyplace Synchronization Server の Everyplace ユーザー ID およびパスワードと一致する必要があります。例えば、デバイス上の Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更する場合、サーバー上のユーザー ID およびパスワードを更新しなければなりません。詳しくは、属する組織の技術サポート担当者に連絡してください。

16. 「Sync Client」パネルで、表示名として使用する名前を「名前 (表示名)」フィールドに入力します。また、使用する E メール・アドレスを「E メール・アドレス」フィールドに入力します。この情報を入力したら、「OK」を押します。
17. デスクトップで、「InstallShield ウィザードの完了」パネルの「完了」をクリックします。

インストールの正常終了の確認

デバイス上に適切に Everyplace Client がインストールされているかどうかを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 「スタート」→「設定」を選択します。
2. 「システム」タブを押します。
3. 「アプリケーションの削除」を押します。
4. インストールする選択をしたすべてのコンポーネントが「ストレージ・メモリー内のプログラム (Programs in storage memory)」ダイアログ・ボックスに表示されることを確認します。以下の Everyplace Client コンポーネントのリストを参照してください。

- IBM Everyplace Client

- IBM Server Initiated Actions (SIA) Monitor
- Extension Services for WebSphere Everyplace
- IBM MIDP 20 (ご使用の言語)
- IBM MIDP 20
- Lotus Sametime Connect
- IBM Mobility Client
- Sync Client
- IBM Software Update
- IBM Offline Portal Browsing
- IBM DB2 Everyplace SyncServer
- IBM DB2 Everyplace サンプル
- IBM DB2 Everyplace

5. 終了するには、画面の右上隅にある「OK」を押します。

注: インストールする選択をしたコンポーネントが「ストレージ・メモリー内のプログラム (Programs in storage memory)」リストに表示されない場合、そのコンポーネントはデバイスに正しくインストールされていません。組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

関連資料

IBM Everyplace Client とその関連コンポーネントについての詳細は、以下の資料を参照してください。

- WebSphere Everyplace Access Server インフォメーション・センター
- Everyplace Client オンライン・ヘルプ

注: ご使用のデバイスで、ヘルプ・アイコン () を押して Everyplace Client オンライン・ヘルプをオープンするか、または Everyplace Client パネルの下部にある「ヘルプ」ボタンを押します。

- Mobility Client User's Guide
- WebSphere Everyplace Access サポート・ページ:
http://www.ibm.com/software/pervasive/ws_everyplace_access/support/

注: WebSphere Everyplace Access 製品資料のリストについては、上記の URL にアクセスして、「Learn」トピックの「Product information and publications」をクリックしてください。

- WebSphere Everyplace Connection Manager サポート・ページ:
http://www.ibm.com/software/pervasive/ws_everyplace_connection_manager/support/

注: WebSphere Everyplace Connection Manager 製品資料のリストについては、上記の URL にアクセスして、「Learn」トピックの「Product information and publications」をクリックしてください。

第 2 章 Everyplace Client の構成

Everyplace Client をインストールした後で、Everyplace Client を構成し、Everyplace Client の動作確認を行うには、以下のトピックを参照してください。

- Everyplace Client の構成の準備
- Everyplace Client の構成
- 同期設定の構成
- Mobility Client の構成
- Everyplace Client セキュリティーの構成
- メモリーの構成

Everyplace Client の構成の準備

Everyplace Client を構成する前に、技術サポート担当者に連絡し、以下の情報を確認してください。

- Everyplace ユーザー ID およびパスワード
- Everyplace Client と Mobility Client を組み合わせて使用する場合、Mobility Client ユーザー ID およびパスワード
- ネットワーク・プロファイル:
 - 技術サポート担当者がネットワーク・プロファイルを作成した場合、そのネットワーク・プロファイルの名前を確認してください。
 - 技術サポート担当者にネットワーク・プロファイルを作成するよう指示された場合、以下の情報を確認してください。

注: Everyplace Client とともに何をインストールしたかに応じて、以下にリストされている項目のすべてが必要ではない場合があります。ネットワーク・プロファイルの作成については、ネットワーク・プロファイルの作成を参照してください。

- ネットワークに接続するときに Secure Sockets Layer (SSL) を使用しますか?
- Everyplace Synchronization サーバー・アドレス
- Offline Content サーバー・アドレス
- DB2 Everyplace サーバー・アドレスおよびターゲット・ディレクトリー
- Device Manager サーバー・アドレス
- OSGi サーバー・アドレス
- Sametime Connect サーバー・アドレスおよびコミュニティー・ポート
- 接続検査に使用したい値は?

この情報について技術サポート担当者に確認したら、いつでも Everyplace Client を構成することができます。

Everyplace Client の構成

Everyplace Client をデバイスにインストールした後、以下の情報で Everyplace Client を構成します。

1. デバイスで Everyplace Client を起動します。
2. Everyplace ユーザー ID およびパスワードを入力し、「ログイン」を押します。

注: デバイスで入力する Everyplace ユーザー ID およびパスワードは、Everyplace Synchronization サーバーの Everyplace ユーザー ID およびパスワードに一致している必要があります。例えば、デバイス上の Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更する場合、サーバー上のユーザー ID およびパスワードを更新しなければなりません。詳しくは、属する組織の技術サポート担当者に連絡してください。

3. ネットワーク・プロファイルを作成します。

注: すでに技術サポート担当者がネットワーク・プロファイルを作成しているはずです。そうではない場合、ネットワーク・プロファイルが作成されるまで、Everyplace Client を起動するたびに「アクティブ・ネットワーク・プロファイル」パネルが表示されます。ネットワーク・プロファイルの作成について詳しくは、ネットワーク・プロファイルの操作を参照してください。

4. オプション: Everyplace Client とともに Mobility Client を使用している場合、まだ技術サポート担当者が作成していなければ、Mobility Client プロファイルを作成してください。

注: Mobility Client プロファイルの作成について詳しくは、Mobility Client の構成を参照してください。

Everyplace Client を構成してログインすると、いつでも Everyplace Client を使用することができます。Everyplace Client の使用について詳しくは、『第 3 章 Everyplace Client の使用』を参照してください。

同期設定の構成

Everyplace Client では、WebSphere Everyplace Access サーバーとデータを同期できます。

同期要求を開始すると、Everyplace Client はサーバーと通信して、アプリケーションを以前に同期したかどうかを判別します。初期同期をまだ実行していない場合には、Everyplace Client ではデータのマージまたはデバイスのデータの置換を実行できます。「置換」を選択すると、Everyplace Client によりデバイスのデータがすべて削除され、サーバーの最新コピーに置き換えられます。「マージ」を選択すると、Everyplace Client によりクライアント・データベース内のすべての項目と、サーバー・データベースの項目リストがフィールド単位で比較されます。サーバーは、クライアントが必要とする項目のリストをコンパイルした後で、クライアント上のデータの同期を開始します。

注: データのマージと置換についての詳細は、初期同期およびデータの置換を参照してください。

初期同期は、完了するまでに長時間かかります。したがって、初期同期は、デバイスが最も高速な接続にアクセスできるときに実行してください。

初期同期の後、Everyplace Client は新規または変更のあったデータのみサーバーからデバイスに、またはデバイスからサーバーに同期させます。

同期設定を構成するには、以下のステップを参照してください。

注: Everyplace Client では、同期を実行するたびにこの構成設定が使用されます。異なる同期設定を使用する場合には、以下の手順で設定を再構成する必要があります。

1. 「私の設定」パネルで「同期設定」を押します。



注: 「私の設定」を開くには、メイン・ビュー・パネルの設定アイコン () を押します。

2. 使用する同期タイプを選択するため、同期名 (「クレードル時」、「手動のみ (Manual Only)」、または「スケジュール済み同期」) の横にあるラジオ・ボタンを押します。
 - 「クレードル時」を選択した場合には、デバイスをクレードルに載せると、Everyplace Client によって選択されているカテゴリーのすべてのアプリケーションが同期されます。
 - 「手動のみ (Manual Only)」を選択した場合には、一度に 1 つのアプリケーションを同期するか、またはカテゴリー全体を同期するかを選択できます。いずれかを選択するには、該当する同期アイコンをクリックします。
 - 「スケジュール済み同期」を選択した場合には、Everyplace Client により同期を実行する頻度を指定するため、時間間隔を時間数または分数単位で指定してください。また、サーバーと同期するアプリケーションも選択してください。デバイスをサーバーに接続すると、Everyplace Client は、選択した時間間隔に基づいて、選択したアプリケーションを同期します。
3. 1 つ以上の確認設定を選択します。
 - **各同期の開始前に確認する** -- Everyplace Client に、サーバーに送信する更新の数を示す確認ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - **各同期が正常に完了した後で確認する (Confirm after each successful sync):** 同期が正常に完了するたびに、Everyplace Client に確認ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - **同期が失敗するたびにアラートを表示する** -- 完了が失敗するたびに、Everyplace Client に警告ダイアログ・ボックスが表示されます。失敗についての詳細情報を参照するには、「ログを表示」を押します。
4. 設定を保管するには「OK」を押し、設定を保管せずに「私の設定」パネルに戻るには「キャンセル」ボタンをクリックします。

Mobility Client の構成

Everyplace Client と Mobility Client を組み合わせて使用する場合には、Mobility Client を構成します。

注: 以下の手順は、Mobility Client バージョン 5.1 に対応しています。Everyplace Client アプリケーションと Mobility Client の同期について詳しくは、Mobility Client による初期同期を参照してください。

Mobility Client を構成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**Mobility Client**」を押します。
2. ドロップダウン・メニューから、使用する Mobility Client 構成プロファイルを選択します。Mobility Client 構成プロファイルについて詳しくは、技術サポート担当者にお問い合わせください。
以下のいずれかを選択します。
 - デフォルト: 独自のデフォルト構成プロファイルを作成したい場合、これを選択します。
 - なし: Mobility Client を使用しないことを示します。
 - 技術サポート担当者が構成プロファイルを作成した場合には、それらの既存の構成プロファイルがドロップダウン・メニューに表示されます。
3. Mobility Client サーバーのアドレスとポート番号を入力します。

注: Mobility Client サーバーのアドレスとポート番号が事前に挿入されていることがあります。Mobility Client サーバー・アドレスとポート番号について詳しくは、技術サポート担当者にお問い合わせください。

4. Everyplace Client が Mobility Client にログインするときに各自のユーザー ID とパスワードを使用するには、Mobility Client ユーザー ID とパスワードを入力するか、または「**Everyplace ユーザー ID およびパスワードを使用する**」を選択します。

注: 「**Everyplace ユーザー ID およびパスワードを使用する**」を選択する場合には、Everyplace ユーザー ID とパスワードが、Mobility Client ユーザー ID とパスワードに一致している必要があります。また、入力する Everyplace ユーザー ID およびパスワードは、Everyplace Synchronization サーバーの Everyplace ユーザー ID およびパスワードに一致している必要があります。例えば、デバイス上の Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更する場合、サーバー上のユーザー ID およびパスワードを更新しなければなりません。ユーザー ID とパスワードについて詳しくは、技術サポート担当者にお問い合わせください。

5. オプション: Mobility Client に接続する必要があるアプリケーションを開くたびに Mobility Client パスワードを入力する場合には、「**常にパスワードの入力を求める**」を選択してください。
6. 変更内容を保管するには「**OK**」を押し、Mobility Client を構成せずに終了するには「**キャンセル**」 ボタンをクリックします。

Mobility Client パスワードの変更

Mobility Client パスワードを変更するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**Mobility Client**」を押します。

注: 「**Mobility Client**」を押すと、Mobility Client プロファイル設定が表示されます。

2. 「パスワード」フィールドを 2 回押します。

注: 「パスワード」フィールドには、アスタリスク (*) が入ります。アクティブにするには、このフィールドを 2 回押す必要があります。パスワード・フィールドがアクティブになると、Everyplace Client は、フィールドにあるアスタリスクをすべて強調表示します。

3. 新規パスワードを「パスワード」フィールドに入力します。
4. 「OK」を押して新規パスワードを保管するか、「キャンセル」を押してパスワードを保管せずに終了します。

Everyplace Client セキュリティーの構成

Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更するには、Everyplace Client セキュリティーを構成します。Everyplace Client に入力する Everyplace ユーザー ID およびパスワードは、Everyplace Synchronization サーバーの Everyplace ユーザー ID およびパスワードに一致している必要があります。例えば、デバイス上の Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更する場合、サーバー上のユーザー ID およびパスワードを更新しなければなりません。Everyplace Client では、ログインするために有効な Everyplace ユーザー ID とパスワードが必要です。

注: Everyplace Client に Everyplace ユーザー ID とパスワードを記憶させるには、「私の設定」パネルの「自動ログオン」を選択します。

Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「セキュリティ」を押します。



注: 「私の設定」を開くには、メイン・ビュー・パネルの設定アイコン () を押します。

2. 新しい Everyplace ユーザー ID を「ユーザー ID」フィールドに入力します。
3. 新しいパスワードを「新規パスワード」フィールドに入力します。
4. 新しいパスワードをもう一度「新規パスワードの確認」フィールドに入力します。
5. 変更内容を保管するには「OK」を押し、パスワードの変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」ボタンをクリックします。

メモリーの構成

Personal Information Management (PIM) および E メール同期後に Everyplace Client が使用可能にするメモリーの容量を指定するには、PIM および Eメールのメモリー設定を構成します。

PIM および Eメールのメモリーを構成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「データの置換」を押します。



注: 「私の設定」を開くには、メイン・ビュー・パネルの設定アイコン () を押します。

2. ドロップダウン・メニューから「メモリー」を選択します。
3. 同期が完了するたびに Everyplace Client が使用可能にするメモリーの容量を示す数値を入力します。
4. 変更内容を保管するには「OK」を押し、保管せずに終了するには「キャンセル」ボタンをクリックします。

第 3 章 Everyplace Client の使用

Everyplace Client で以下のタスクを実行するときの詳細については、該当するセクションを参照してください。

- Everyplace Client ユーザー・インターフェースについての理解
- カテゴリーの操作
- ショートカットの個別設定
- テーマの選択
- アプリケーションの同期
- ネットワーク・プロファイルの操作
- データの置換
- ソフトウェア更新の確認
- 管理用タスクの完了
- Sametime Connect の使用

Everyplace Client ユーザー・インターフェースについての理解

デバイスで Everyplace Client を開くには、Everyplace Client アイコン () を押し、Everyplace ユーザー ID とパスワードを入力します。

注: Everyplace Client に入力する Everyplace ユーザー ID およびパスワードは、Everyplace Synchronization サーバーの Everyplace ユーザー ID およびパスワードに一致している必要があります。例えば、デバイス上の Everyplace ユーザー ID またはパスワードを変更する場合、サーバー上のユーザー ID およびパスワードを更新しなければなりません。詳しくは、属する組織の技術サポート担当者に連絡してください。

メイン・ビュー・パネルは、以下のアイテムで構成されています。

- ショートカット・バー: ショートカット・バーには、カスタマイズ可能なアプリケーション・ショートカットのリストが表示されます。

注: 以下のショートカットを除去することはできません。

- 設定: 設定アイコン () を使用して、「私の設定」パネルを開くことができます。
- ヘルプ: ヘルプ・アイコン () を使用して、Everyplace Client オンライン・ヘルプを開くことができます。
- Everyplace Client のクローズ: クローズ・アイコン () を使用して、Everyplace Client を終了することができます。

- **カテゴリ:** カテゴリ・ドロップダウン・メニューでは、カテゴリを切り替えることができます。各カテゴリに含めるアプリケーションのリストをカスタマイズできます。



- **カテゴリ同期開始アイコン** (): カテゴリ・ドロップダウン・メニューの右側にあるカテゴリ同期開始アイコンを使用して、カテゴリ・レベルの同期を開始できます。



- **同期停止アイコン** (): 同期停止アイコンを使用して、実行中の同期を停止できます。
- **カテゴリ・ビュー:** カテゴリ・ビューには、選択したカテゴリに割り当てられているアプリケーションのリストが表示されます。このビューでは、各アプリケーションの状況情報を表示、手動で 1 つのアプリケーションを同期、カテゴリ全体を同期、またはアプリケーション上で押して開く操作を実行できます。

Everyplace Client ユーザー・インターフェースに表示されるアイコンのリストについては、以下を参照してください。

新規アイテム・アイコン ()

直前の同期実行中にアプリケーションの新規アイテムを受信したことを示します。

待機アイテム・アイコン ()

デバイス上で作成したアイテムが、サーバーとの同期を待機していることを示します。

同期エラー・アイコン ()

前回のアプリケーション同期が失敗したか、または完了していないことを示します。「ログを表示」を押して最新の同期ログを開き、失敗に関する詳細情報を参照します。

注: また、同期エラー・アイコンを押すと、同期の失敗に関する詳細を表示することができます。

アプリケーション同期アイコン ()

このアプリケーションを手動で同期できることを示します。該当するアプリケーションの同期を開始するには、このアイコンを押します。



カテゴリ同期アイコン ()

カテゴリ同期を実行します。



同期停止アイコン ()

同期を停止するには、このアイコンを押します。

注: このアイコンは、同期開始後に表示されます。



切断アイコン ()

サーバーに接続していないか、またはこの時点で Everyplace Client からサーバーに接続できないことを示します。このアイコンが表示されている場合には、同期を実行できません。



新規作成アイコン ()

新規カテゴリまたはネットワーク・プロファイルを作成します。



アイテムの編集アイコン ()

カテゴリまたはネットワーク・プロファイルの名前を編集します。



アイテムの削除アイコン ()

カテゴリまたはネットワーク・プロファイルを削除します。



オンライン・ヘルプのオープン・アイコン ()

Everyplace Client オンライン・ヘルプを開くことができます。

注: また、どの Everyplace Client パネルで「ヘルプ」を押しても、Everyplace Client オンライン・ヘルプを開くことができます。



私の設定のオープン・アイコン ()

「私の設定」パネルを開くことができます。



Everyplace Client のクローズ・アイコン ()

Everyplace Client を終了することができます。

注: 画面上部の「X」を押すと、Everyplace Client が最小化されます。



Sametime Connect アイコン ()

Sametime Connect アプリケーションを起動することができます。

カテゴリの操作

カテゴリにより、各カテゴリ・メニューの下に表示するアプリケーションを設定することで、Everyplace Client を編成できます。「**カテゴリ**」設定パネルでは、カテゴリの新規作成、カテゴリ名の編集、またはカテゴリの削除を実行できます。

カテゴリの操作についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- カテゴリの新規作成
- カテゴリの編集
- カテゴリの削除

カテゴリの新規作成

アプリケーションを編成するためのカテゴリを新規に作成できます。

カテゴリを新規に作成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**カテゴリ**」を押します。
2. 新規カテゴリ・アイコン()を押します。
3. 「**カテゴリ名**」フィールドに新規カテゴリの名前を入力します。
4. 「**OK**」を押します。
5. カテゴリに含めるアプリケーションを選択します。
6. 変更内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

カテゴリの編集

カテゴリを編集して名前を変更したり、または既存のカテゴリに関連付けられているアプリケーションを変更したりできます。

新規カテゴリ名を編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**カテゴリ**」を押します。
2. 編集するカテゴリを選択します。
3. ツールバーの編集アイコン()を押します。
4. カテゴリ名を編集します。
5. 変更内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

カテゴリの内容を編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**カテゴリ**」を押します。
2. 編集するカテゴリを選択します。
3. カテゴリに含めるアプリケーションを選択し、カテゴリから除去するアプリケーションを選択解除します。
4. 変更内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

カテゴリの削除

新規カテゴリを作成するための領域を確保する場合や、カテゴリ・リストを再編成する場合に、カテゴリを削除できます。

カテゴリを削除するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「**カテゴリ**」を押します。
2. 削除するカテゴリを選択します。
3. 削除アイコン()を押します。
4. カテゴリ削除操作を確定するには「**はい**」を押し、カテゴリを維持するには「**いいえ**」を押します。

ショートカットの個別設定

ショートカットの個別設定では、ショートカット・バーにアプリケーションを追加、またはバーからアプリケーションを除去できます。ショートカット・バーには最大 7 つのアプリケーション・ショートカットを追加できます。

アプリケーション・ショートカットの操作についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ショートカットの追加
- ショートカットの除去

ショートカットの追加

ショートカット・バーにアプリケーションを追加するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ショートカット」を押します。
2. ショートカット・バーに追加するアプリケーションを選択します。
3. アプリケーションをショートカット・バーに追加するには「OK」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」 ボタンをクリックします。

次回 Everyplace Client メイン・ビュー・パネルを開くときに、新しいショートカットがショートカット・バーに表示されます。

ショートカットの除去

ショートカット・バーからアプリケーションを除去するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ショートカット」を押します。
2. ショートカット・バーから除去するアプリケーションのチェック・ボックスからチェック・マークを外します。
3. アプリケーションをショートカット・バーから除去するには「OK」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」 ボタンをクリックします。

テーマの選択

Everyplace Client テーマでは、選択したテーマに基づいて、Everyplace Client の外観を個別設定できます。

注: Everyplace Client のデフォルト・テーマは **WebSphere** です。テーマ・アイコンの外観は、WebSphere のデフォルト・テーマ・アイコンとは異なることがあります。

Everyplace Client のテーマを変更するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「テーマ」を押します。
2. 使用するテーマの横にあるラジオ・ボタンを押します。
3. 選択したテーマを保管するには「OK」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」 ボタンをクリックします。

アプリケーションの同期

サーバーとの間で最新情報を送受信するには、アプリケーションを同期します。以下の 3 種類の同期があります。

- カテゴリー・レベルの同期: カテゴリーに割り当てられているすべてのアプリケーションを同期できます。
- アプリケーション・レベルの同期: 個別のアプリケーションを同期できます。
- スケジュール済み: 指定した時間間隔で同期する一連のアプリケーションを選択できます。

アプリケーションの同期について詳しくは、以下を参照してください。

- 初期同期
- Mobility Client による初期同期
- カテゴリー・レベルの同期の実行
- アプリケーション・レベルの同期の実行
- スケジュール済み同期の構成
- E メール の操作
- カスタム・フォルダーの同期

初期同期

Everyplace Client のインストール後に初めてデバイスを同期するときに、以下のオプションを示すダイアログ・ボックスが表示されます。

- マージ: Everyplace Client のインストール前にデバイスに作成したデータをすべて保存しておく場合には、「マージ」を押します。「マージ」を選択すると、Everyplace Client をインストールする前に、デバイスにあるデータが保存され、サーバーからすべての Personal Information Management (PIM) データと E メール・データのコピーがデバイスに送信されます。
- 置換: デバイスのすべての PIM データと E メール・データを削除し、サーバーからの PIM データと E メール・データのコピーに置き換える場合は、「置換」を押します。「置換」を選択すると、Everyplace Client 5.0 インストール前にデバイスで行ったデータの変更や更新はすべて失われます。

注: データ置換についての詳細は、データの置換を参照してください。

- キャンセル: 同期を実行せずにダイアログ・ボックスを終了するには、「キャンセル」を押します。

初期同期は、完了するまでに長時間かかります。したがって、初期同期は、デバイスが最も高速な接続にアクセスできるときに実行してください。

Mobility Client による初期同期

Everyplace Client とともに Mobility Client を使用してアプリケーションを同期する場合、初期同期の間に、Mobility Client に関連するいくつかのパスワード確認パネル、ログイン・パネル、およびエラー・メッセージが表示されることがあります。Mobility Client では、初期同期の間にこれらのエラー・メッセージおよびログイン・パネルが表示されることがよくありますが、同期を行うたびに表示されることもあります。表示されるエラー・メッセージ、ログイン・パネル、およびパスワード

ド確認パネルの数は、どのように Mobility Client を Everyplace Client とともに使用しているか、どのように Mobility Client を構成しているか、また同期を行うときのネットワーク接続のレベルによって異なります。

Mobility Client ログインおよびパスワード確認パネルが表示される原因についてのリストは以下を参照してください。

- Mobility Client パスワードを入力していない
- 組織が第 2 レベル認証を必要としている
- 無効なパスワードを入力した
- 新規パスワードが一致していない
- パスワードの有効期限が切れている
- 新規パスワードがセキュリティ・ガイドラインに従っていない

Mobility Client を使用して同期を行うときにエラー・メッセージが表示される場合、それらのエラーについて詳しくは、Mobility Client のエラー・メッセージを参照してください。

カテゴリ・レベルの同期の実行

カテゴリ・レベルの同期を実行するには、以下のステップを参照してください。

1. メイン・ビュー・パネルのカテゴリ・ドロップダウン・メニューから、同期するカテゴリを選択します。



2. カテゴリ同期アイコン () を押します。

3. オプション: カテゴリの同期実行中に同期を停止するには、同期停止アイコン () を押します。

4. オプション: 同期ログを参照するには、「ログを表示」を押します。

注: 同期設定を構成するときに「同期が成功するたびに確認を表示する」を選択すると、表示されるのは「ログを表示」ボタンだけです。この機能を選択するときの詳細については、同期設定の構成を参照してください。

カテゴリについて詳しくは、カテゴリの操作を参照してください。

アプリケーション・レベルの同期の実行

アプリケーション・レベルの同期を実行するには、以下のステップを参照してください。

1. メイン・ビュー・パネルのカテゴリ・ドロップダウン・メニューから、同期するアプリケーションが含まれているカテゴリを選択します。
2. 同期するアプリケーションの横にある同期アイコン () を押します。
3. オプション: 同期ログを参照するには、「ログを表示」を押します。

注: 同期設定を構成するときに「同期が成功するたびに確認を表示する」を選択すると、表示されるのは「ログを表示」ボタンだけです。この機能を選択するときの詳細については、同期設定の構成を参照してください。

スケジュール済み同期の構成

スケジュール済み同期を構成することで、特定の時間間隔で同期する一連のアプリケーションを指定できます。スケジュール済み同期の構成の詳細については、同期設定の構成を参照してください。

E メール の操作

E メール の操作または E メール・アプリケーションの同期についての詳細は、以下を参照してください。

- 初めて実行した同期が完了すると、Everyplace Client では E メール の受信箱に **Everyplace Client** という名前の新しいフォルダーが作成されます。E メール・アプリケーションを同期すると、E メール・サーバーからすべての E メールが「Everyplace Client」フォルダーに転送されます。
- デバイスのデータとサーバーのデータの不整合を防止するため、E メール・メッセージを手動で削除するように E メール受信箱を構成します。
E メール・メッセージを手動で削除するように E メールを構成するには、以下のステップに従います。
 1. E メール・アプリケーションを開きます。
 2. 下部のツールバーにある「ツール」を押し、「オプション」を選択します。
 3. 「メッセージ」タブを押します。
 4. 「削除済みアイテムを空にする (Empty deleted items)」ドロップダウン・メニューから「手動 (Manually)」を選択します。
 5. 「OK」を押して完了します。

カスタム・フォルダーの同期

デバイスで E メールを同期させたいサーバーに、E メール受信箱のカスタム・フォルダーを作成する場合、そのサーバーを同期する前に同じフォルダーをデバイスに作成する必要があります。同じフォルダーをデバイスに作成した後、E メールを新しいフォルダーに移動する前にサーバーと同期させなければなりません。同期させる前に E メールを新しいフォルダーに移動すると、サーバーで重複する E メールを (1 つは元の場所で、もう 1 つは同期中に作成された新しいフォルダーで) 受信することがあります。

注: カスタム・フォルダーの名前、およびデバイスでのその場所は、フォルダーの名前、およびサーバーでのそのロケーションに一致している必要があります。

ネットワーク・プロファイルの操作

ネットワーク・プロファイルでは、同期実行時に接続するサーバーのアドレスを指定できます。新規プロファイルの作成、既存のプロファイルの編集、またはプロファイルの削除を実行できます。

注: 「私の設定」パネルのプロファイル・ドロップダウン・メニューを使用してプロファイルを選択できます。

ネットワーク・プロファイルの操作についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- ネットワーク・プロファイルの作成
- ネットワーク・プロファイルの編集
- ネットワーク・プロファイルの削除

ネットワーク・プロファイルの作成

ネットワーク・プロファイルを作成するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ネットワーク・プロファイル」を押します。
2. 新規プロファイル・アイコン () を押します。
3. 新しいプロファイルの名前を「プロファイル名」フィールドに入力し、「OK」を押します。
4. 接続する必要があるサーバーのアドレスを該当するフィールドに入力します。

注: 必要なサーバーとサーバー・アドレスのリストについては、属する組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

5. 「接続検査」フィールドで、ネットワーク接続が使用可能であるかどうかを確認する頻度を指定します。デフォルトは 30 秒です。
6. 新規プロファイルを保管するには「OK」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」ボタンをクリックします。

ネットワーク・プロファイルの編集

プロファイル名またはサーバー・アドレス情報を変更するには、ネットワーク・プロファイルを編集します。

既存のネットワーク・プロファイル名を編集するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ネットワーク・プロファイル」を押します。
2. ドロップダウン・メニューを使用して、編集するネットワーク・プロファイルを選択します。
3. 編集アイコン () を押します。
4. プロファイル名を編集して「OK」を押します。
5. 新規サーバー・アドレス情報を入力します。

注: 必要なサーバーとサーバー・アドレスのリストについては、属する組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

6. 変更内容を保管するには「OK」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「キャンセル」ボタンをクリックします。

ネットワーク・プロファイルの削除

古いネットワーク・プロファイルを Everyplace Client から除去するには、プロファイルを削除します。

既存のネットワーク・プロファイルを削除するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ネットワーク・プロファイル」を押します。
2. ドロップダウン・メニューを使用して、削除するネットワーク・プロファイルを選択します。
3. 削除アイコン () を押します。
4. カテゴリー削除操作を確定するには「はい」を押し、カテゴリーを維持するには「いいえ」を押します。

データの置換

デバイス上の個人情報管理 (PIM) および E メール・データが壊れている場合に、データの置換を使用すると、選択したアプリケーションの最新のサーバー・サイド・データに置き換えることができます。

注: データの置換では、現在デバイス上にあるすべての PIM および E メール・データが削除され、選択したアプリケーションのサーバー・サイド・コピーに置き換えられます。デバイスで行った変更内容のうち、データ置換前にサーバーとの間で同期していない変更内容はすべて失われます。

データを置換するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「データの置換」を押します。
2. ドロップダウン・メニューから「データの置換」を選択します。
3. データを置換するアプリケーションを選択します。
4. 選択したアプリケーションのデバイスのデータとサーバーのデータの置換を開始するため、「データの置換」を押します。
5. データ置換操作を確定するには「OK」を押し、データ置換を実行せずに終了するには「キャンセル」を押します。

ソフトウェア更新の確認

属する組織の技術サポート・チームからソフトウェア更新を受信するには、ソフトウェア更新を定期的に確認します。

注: ソフトウェア更新を確認する際は、その前に Device Manager Server (DMS) アドレスがネットワーク・プロファイルに指定されていることを確認してください。ネットワーク・プロファイルの構成についての詳細は、ネットワーク・プロファイルの作成 を参照してください。

ソフトウェア更新を確認するには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「ソフトウェア更新」を押します。
2. 「更新を取得」を押します。

管理用タスクの完了

管理用タスクを使用する作業についての詳細は、このセクションを参照してください。

注: 以下のセクションの手順は、属する組織の技術サポート担当者の指示があった場合にのみ、実行してください。

トレースの操作

トレースによってデバッグ・ログが活動化され、属する組織の技術サポート担当者はこのログを使用して Everyplace Client のデバッグを行います。

注: トレースは、属する組織の技術サポート担当者の指示があった場合にのみ、使用可能に設定してください。

ご使用のデバイスでトレースを使用可能にするには、以下のステップを参照してください。

1. 「私の設定」パネルで「サービス提供中」を押します。
2. 「トレースをオンに設定」を選択して、トレースをオンに設定します。
Everyplace Client からテキスト・ウィンドウにトレース情報が表示されます。
3. オプション: 「クリア」を押すと、テキスト・ウィンドウの内容が消去されません。
4. 「非表示」を押すと、トレース・パネルが最小化されます。

トレースが可能であれば、Everyplace Client からデバッグ・ログが作成されます。属する組織の技術サポート担当者からの依頼があった場合には、ログをお送りください。

デバッグ・ログの名前とデバイス上の場所については、以下のリストを参照してください。

coredump.txt

場所: ¥WEA¥coredump.txt

Everyplace Client についての一般情報が含まれます。

ic_log.txt

場所: ¥WEA¥ic_log.txt

ImageChanger ActiveX[®] コントロールのトレース情報が含まれます。

icu_trace_log.txt

場所: ¥WEA¥icu_trace_log.txt

同期コンポーネントのトレース情報が含まれます。

pim_trace_log.txt

場所: ¥WEA¥pim_trace_log.txt

PIM (Personal Information Management) と E メール同期アダプターのトレース情報が含まれます。

trace_log.txt

場所: ¥WEA¥trace_log.txt

トレース・ログについて情報が含まれます。

webcache_log.txt

場所: ¥WEA¥webcache_log.txt

オフライン・ホームとオフライン・フォームについてのトレース情報が含まれます。

データベース同期の構成

データベース同期を使用して、デバイスのデータをデータベース・アプリケーションと同期できます。これらのデータベース・アプリケーションは、ユーザー向けに技術サポート担当者が構成しています。

注: データベース同期設定の変更は、属する組織の技術サポート担当者から指示があった場合にのみ行ってください。

データベース同期設定を変更するには、以下の手順を参照してください。

データベース同期設定の変更

以下の同期設定を変更するには、該当する手順を参照してください。

1. カテゴリのドロップダウン・メニューから「**データベース同期**」を含むカテゴリを選択します。デフォルトでは、Everyplace Client により、「**データベース同期**」は「**マイ・ツール**」カテゴリに割り当てられます。
2. 「**データベース同期**」を押します。
「iSync」パネルが表示されます。
3. 「**ファイル**」を押し、変更する設定を選択します。

• サーバー設定:

- a. 同期するデータベース・アプリケーション・サーバーのサーバー・アドレスを「**URL**」フィールドに指定します。

注: 新しいアドレスを入力することができますが、既存のアドレスをドロップダウン・メニューから選択することもできます。

- b. 同期したいデータベース・アプリケーション・サーバーのユーザー ID およびパスワードを「**ユーザー**」および「**パスワード**」フィールドに入力します。
- c. データベース・アプリケーション・サーバーに接続するたびにパスワードを入力したくない場合は、「**パスワードを保存**」を選択します。
- d. 設定内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

• クライアント設定:

- a. 表示するトレース情報のタイプを「**トレース**」ドロップダウン・メニューから選択します。
- b. データベース同期トレース情報を送信するデバイス上の場所を「**ターゲット・パス (Target Path)**」フィールドに指定します。
- c. 設定内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

• ネットワーク設定:

- a. 「**タイムアウト**」ドロップダウン・メニューから値を選択して、タイムアウト制限を指定します。

- b. ネットワークに接続するとき使用する接続のタイプを「ネットワーク」ドロップダウン・メニューで指定します。
 - c. プロキシ設定を使用してネットワークに接続する場合、「**プロキシの使用**」を選択します。
 - d. 設定内容を保管するには「**OK**」を押し、変更内容を保管せずに終了するには「**キャンセル**」ボタンをクリックします。
- **サブスクリプション・セット設定:**
 - a. データベース・アプリケーションの同期に使用したいサブスクリプション・セットを押し、「**使用可能**」を選択します。
 - b. 使用したくないサブスクリプション・セットを使用不可に設定するには、該当のサブスクリプション・セットを選択し、「**使用不可**」を選択します。
 - c. 「**OK**」を押して、変更内容を保管して終了します。
 - d. オプション: サブスクリプション・セットの詳細をすべて表示するには、サブスクリプション・セットを選択し、「**詳細**」を押します。
 - e. オプション - デバイス上にあるアプリケーション・データをすべて削除し、サーバー側のコピーで置き換えたい場合は、「**パージ (Purge)**」を押します。
 - **同期** - データベース・アプリケーションの同期を開始するには、同期を選択します。

注: 「同期」を押すと、すぐに同期が開始されます。

4. iSync パネルを終了するには、「**ファイル**」を押して「**終了**」を選択してください。

オフライン・フォームの操作

オフライン・フォームにより、Everyplace Client をオフラインで使用しているときに、アプリケーションにデータを入力できます。データをオフライン・フォームに入力した後、そのフォームを送信し、次にネットワーク・アクセスを実行するときにサーバーと同期させることができます。

オフライン・フォームの操作について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- オフライン・フォームへのデータの入力
- オフライン・フォームの同期

オフライン・フォームへのデータの入力

データの入力および、技術サポート担当者が構成したオフライン・フォームについては以下の指示に従ってください。

1. 「**オフライン・ホーム・ページ**」を同期して、技術サポート担当者がユーザー向けに構成したオフライン・フォームを表示します。

注: デフォルトでは、Everyplace Client により、「**オフライン・ホーム・ページ**」は「**マイ・ツール**」カテゴリーに割り当てられます。

2. 「**オフライン・ホーム・ページ**」を押して、データを入力するフォームを選択します。

3. フォームにコンテンツを入力して「発信」を押し、次にネットワーク・アクセスを実行するときに同期させるよう、そのフォームをデバイスに保管します。オフライン・コンテンツを保管すると、Everyplace Client には「ユーザーの要求が据え置きになりました。(Your request has been deferred.)」というメッセージが表示されます。

注: 「マイ・ツール」カテゴリーで「オフライン・フォーム」を押すことによって、保管したオフライン・フォームのリストを表示できます。

4. オフライン・ホーム・ページに戻るには「オフライン・ホーム」を押します。Everyplace Client に戻るには、「WEA クライアント・ページ」を押します。

オフライン・フォームの同期

サーバーとオフライン・コンテンツを同期するには、以下のステップを参照してください。

注: 属する組織の技術サポート担当者の指示があった場合にのみ、オフライン・フォームを同期させてください。

1. オフライン・フォームの横にある同期アイコン () を押すことによって、オフライン・フォームを同期します。

同期が完了すると、Everyplace Client のステータス・バーに更新された同期状況情報が表示されます。例えば「最終同期 - 2:30 PM」と表示されます。

2. 「オフライン・フォーム」を押して、実行依頼したオフライン・フォームを表示します。Everyplace Client に、各実行依頼のタイム・スタンプと、正常終了した同期に関する情報が表示されます。
3. オフライン・フォームの同期完了後にサーバーのデータを受信する予定である場合には、表示するデータのタイム・スタンプ・リンクを押してから、「応答を表示」を押します。
4. Everyplace Client に戻るには、パネル下部にあるブラウザーの戻り矢印ボタンを押します。

Sametime Connect の使用

Sametime Connect により、オンラインの友人および同僚のリストを保守できるため、相手を探し出してリアルタイムで安全に通信することが可能になります。Sametime Connect を使用すると、個人用コンタクト・リストを作成できます。作成するリストには、公開アドレス帳に定義されたグループや、自分で定義する個人用のグループを含めることができます。Sametime Connect にログインしている間は、リストに登録されたメンバーがネットワークにログインすると、それが通知されるため、ログイン・メンバーにインスタント・メッセージを送信できます。

Sametime Connect についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

- Sametime Connect の要件
- Sametime Connect の用語
- Sametime Connect 接続設定の構成
- Sametime Connect へのログイン

- 他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージの送信
- ユーザーまたはグループの管理
- オンライン状況の変更
- 現在のオンライン状況メッセージの編集

Sametime Connect の要件

Everyplace Client とともに Sametime Connect を実行するには、以下のサーバーと拡張機能が必要です。

- Sametime Server 3.1
- Sametime Server Extensions for Mobile Access

注: 従来の Sametime Connect のお客様は、Sametime Server Extensions for Mobile Access を Passport Advantage® Web サイトからダウンロードできます。

Sametime Connect の用語

Sametime Connect についての詳細は、以下に示す Sametime Connect の用語リストを参照してください。

メッセージ

2 人の Sametime Connect ユーザー間で交換されるテキスト・メッセージ。

グループ

Sametime Connect を使用すると、単一グループ名を用いて連絡先のグループを編成できます。例えば、**Work** という名前のグループを作成し、この Work グループのもとで仕事関連の連絡先をすべてグループ化することができます。基本的なグループは、以下の 2 つです。

- 公開: 公開グループは、企業の公開アドレス帳で定義されたグループです。公開アドレス帳の所有者は、公開グループのメンバーシップを定義し、管理します。
- 個人: 個人グループは、個人が定義するユーザーのグループです。個人グループには、個人を登録したり削除したりできます。

オンライン状況

オンライン状況は、Sametime Connect サーバー上の Sametime Connect ユーザーのアクティブ状況を指します。Sametime Connect を使用する場合は、以下の状況オプションの中からいずれかを選択することも、独自のカスタム状況メッセージを作成することも可能です。

- オフライン: Sametime Connect ユーザーがログインしておらず、チャットが使用できない状況です。
- 応答可: Sametime Connect ユーザーがログインしており、チャットが使用可能な状況です。
- 離席中: Sametime Connect ユーザーはログインしていますが、現在コンピューターを使用していない状況です。

注: カスタムの「離席中」メッセージを作成して残すことができます。カスタム離席中メッセージの作成についての詳細は、現在のオンライン状況メッセージの編集を参照してください。

- 応答不可: Sametime Connect ユーザーはログインしていますが、応答できない状況です。

注: カスタムの「応答不可」メッセージを作成して残すことができます。カスタム離席中メッセージの作成についての詳細は、現在のオンライン状況メッセージの編集を参照してください。

Sametime Connect ユーザーからメッセージを送信してきたときに、自分のオンライン状況が「**離席中**」に設定されている場合は、Sametime Connect によってメッセージが自分の画面にが表示され、さらに、作成しておいたメッセージが自動応答として送信者に送られます。オンライン状況が「**応答不可**」に設定されている場合は、Sametime Connect によって、応答不可であることを通知する自動応答が送信者に送られます。

Sametime Connect 接続設定の構成

初めて Sametime Connect を起動するとき、以下の設定を構成する必要があります。

注: これらの設定を Sametime Connect を構成した後で変更するには、ログイン・パネルで「**接続設定**」を押してください。

1. **ホスト:** Sametime Connect サーバーに接続するときに使用する Sametime Connect サーバー・ホスト名を指定します。
2. **コミュニティー・ポート:** Sametime Connect サーバーに接続するときに使用するポートを指定します。
3. **タイムアウト:** Sametime Connect サーバーへの接続の試行がタイムアウトになる時間を指定します。
4. 設定内容を保管するには「**OK**」を押し、保管せずに終了するには「**キャンセル**」を押します。

Sametime Connect へのログイン

Sametime Connect を起動すると、ログイン・パネルが表示されます。

注: Sametime Connect サーバーに必要な設定がされていない場合は、**接続設定**パネルが開きます。

Sametime Connect へログインするには、以下のステップを参照してください。

1. ユーザー名とパスワードを入力します。
2. オプション: アプリケーションの起動時に、自動的に Sametime Connect へログインするには、「**自動ログオン**」を選択します。

注: このオプションでは、デバイスのパスワードを保存します。起動時に Sametime Connect のパスワード入力を求めるプロンプトが出なくなります。

3. オプション: Sametime Connect の接続設定を設定するには、「**接続設定**」を押します。接続設定を編集できるのは、Sametime Connect へログインしている間です。

注: 詳しくは、Sametime Connect 接続設定の構成を参照してください。

4. 「**ログオン**」を押します。

他の Sametime Connect ユーザーへのメッセージの送信

他のユーザーにメッセージを送信するには、以下のようにします。

1. グループ・リスト内で、メッセージを送信したい相手の名前を押します。
2. 「ツール」 → 「チャット」と押します。
3. テキスト域にメッセージを入力します。
4. 「送信」を押します。

詳細:

使用するデバイスによっては、別の方法で「メッセージ送信 (Send Message)」パネルを開く場合もあります。

ユーザーまたはグループの管理

コンタクト・リストとは、連絡を保ちたい人やメッセージをやりとりしたい人を登録するリストです。Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加したり、リストから除去したりできますが、連絡先リスト内の各連絡先をグループに割り当てる必要があります。Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加した場合は、グループを選択するか、追加したユーザー用の個人グループを作成する必要があります。会社の公開アドレス帳の公開グループを使用することもできます。

注: 公開グループの所有者は、公開アドレス帳のメンバーシップを定義します。公開グループのメンバーを追加または削除することはできません。

Sametime Connect ユーザーは、連絡先リスト内の複数のグループに登録できます。例えば、**Work** グループのあるメンバーを **Friends** グループのメンバーとすることもできます。

Sametime Connect ユーザーの追加

Sametime Connect ユーザーを連絡先リストに追加するには、以下のステップを参照してください。

1. 「ツール」 → 「追加」と押して、「メンバーを追加」パネルを開きます。
2. 「ユーザー名」に、連絡先の完全な E メール・アドレスを入力します。
3. オプション: 連絡先のニックネームを入力します。この名前は、ご使用のコンタクト・リスト内でのみ、ユーザー名の代わりに表示されます。
4. 新規連絡先をグループに割り当てるには、既存の個人グループ名を選択します。新規グループを作成するには、新しい個人グループの名前を入力します。
5. 「追加」を押します。

Sametime Connect ユーザーの除去

Sametime Connect ユーザーを連絡先リストから除去するには、以下のステップを参照してください。

1. コンタクト・リスト内で、除去したいメンバーを押します。
2. 「ツール」 → 「除去」と押します。
3. 連絡先をリストから除去する操作を確定したい場合は「はい」を、連絡先をリストから除去しないで終了する場合は「キャンセル」を押します。

オンライン状況の変更

オンライン状況を変更して、連絡先リスト内の他の Sametime Connect ユーザーに、自分の状況が応答可、離席中、または応答不可であることを通知します。「設定」パネルで状況メッセージを定義できます。

オンライン状況を変更するには、次のようにします。

1. Sametime Connect パネルの下部に表示されている現在のオンライン状況メッセージを押します。
2. オンライン状況を選択するには、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 応答可
 - 離席中
 - 応答不可
 - オンライン状況メッセージを編集

注: オンライン状況メッセージを編集すると、カスタム・オンライン状況メッセージを作成および表示できます。

Sametime Connect ユーザーからメッセージを送信してきたときに、自分のオンライン状況が「離席中」に設定されている場合は、Sametime Connect によってメッセージが自分の画面にが表示され、さらに、作成しておいたメッセージが自動応答として送信者に送られます。オンライン状況が「応答不可」に設定されている場合は、Sametime Connect によって、応答不可であることを通知する自動応答が送信者に送られます。

現在のオンライン状況メッセージの編集

オンライン状況メッセージを編集するには、以下の手順を参照してください。

注: また、「設定」パネル内でオンライン状況メッセージを定義することもできます。「設定」パネルを開くには、「ツール」→「設定」と押します。

1. 「状況」タブを押します。
2. 編集したいメッセージの横にある「編集」ボタンを押します。
3. 表示したいメッセージをドロップダウン・メニューから選択するか、新しいメッセージを入力して「追加」を押します。
4. 表示したいメッセージを選択し、「OK」を押します。

第 4 章 Everyplace Client のアンインストール

Everyplace Client をアンインストールするには、まずデスクトップから Everyplace Client をアンインストールし、次に、ご使用のデバイスから Everyplace Client をアンインストールします。Everyplace Client のアンインストールの詳細については、以下のセクションを参照してください。

- デスクトップからの Everyplace Client のアンインストール
- デバイスからの Everyplace Client のアンインストール

デスクトップからの Everyplace Client のアンインストール

デスクトップから Everyplace Client をアンインストールするには、以下の手順を実行してください。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
2. 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
3. 「**Everyplace Client R5.01 for Windows Mobile 200X**」を選択して、「**除去**」をクリックします。

注: 上記の Windows Mobile 200X の X は、ご使用のデバイスにインストールされているオペレーティング・システムを示します。例えば、Windows Mobile 2002 または Windows Mobile 2003 です。

4. デスクトップからの Everyplace Client のアンインストールを確定するには、「**OK**」をクリックします。
5. 「完了」をクリックして、Everyplace Client のアンインストールを実行します。

デバイスからの Everyplace Client のアンインストール

デバイスから Everyplace Client をアンインストールするには、以下のステップを参照してください。

1. 「スタート」→「設定」を選択します。
2. 「システム」タブを押します。
3. 「アプリケーションの削除」を押します。
4. アンインストールしたい Everyplace Client コンポーネントを選択し、「**削除**」を押します。

以下の Everyplace Client コンポーネントのリストを参照してください。

- IBM Everyplace Client
- IBM Server Initiated Actions (SIA) Monitor
- Extension Services for WebSphere Everyplace
- IBM MIDP 20 (ご使用の言語)
- IBM MIDP 20
- Lotus Sametime Connect
- IBM Mobility Client

- Sync Client
- IBM Software Update
- IBM Offline Portal Browsing
- IBM DB2 Everyplace SyncServer
- IBM DB2 Everyplace サンプル
- IBM DB2 Everyplace

注: Everyplace Client を完全にアンインストールするには、すべてのコンポーネントを除去する必要があります。Everyplace Client コンポーネントは、一度に 1 つずつ除去してください。

第 5 章 トラブルシューティング

この章の情報を参照すると、Everyplace Client のトラブルシューティングに役立ちます。

- 戻りコードの定義
- Personal Information Management (PIM) 同期の戻りコード
- エラー・メッセージ

戻りコードの定義

Everyplace Client の戻りコードとその定義の詳細については、このセクションの説明を参照してください。

注: エラー・メッセージの前には通常、戻りコード E3001 から E3017 が出力されます。原因と推奨するユーザー処置の詳細については、以下の Everyplace Client Everyplace Client のエラー・メッセージを参照してください。

E3001 サービスは失敗しました。

E3002 Everyplace Client を初期化できませんでした。(Everyplace Client failed to initialize.)

E3003 Everyplace Client がブラウザーを始動できませんでした。(Everyplace Client failed to start the browser.)

E3004 Everyplace Client が Web エージェントを始動できませんでした。(Everyplace Client failed to start the web agent)

E3005 Everyplace Client 統合機能を初期化できませんでした。(Everyplace Client aggregator failed to initialize.)

E3006 Everyplace Client が集合データを取得できませんでした。(Everyplace Client failed to get aggregate data.)

E3007 Everyplace Client がデータを同期できませんでした。(Everyplace Client failed to synchronize data.)

E3008 Everyplace Client が、前回のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 同期のタイム・スタンプ情報を取得できませんでした。(Everyplace Client failed to get the time stamp information for the last Application Programming Interface (API) synchronization.)

E3009 前回の同期の問題検査。(Problem checking for last synchronization.) データ破壊の可能性があります。(Data corruption possible.)

E3010 iSync ユーザー・インターフェースを構成できませんでした。(Configuration of the iSync user interface failed.)

E3011 Everyplace Client が同期をキャンセルできませんでした。(Everyplace Client failed to cancel the synchronization.)

E3012 プラグインを解放できません。(Not able to free a plug-in.)

- E3013** Everyplace Client が Everyplace ユーザー ID およびパスワードを取得できませんでした。(Everyplace Client failed to get the Everyplace user ID and password.)
- E3014** Everyplace Client がデータ・マージのログ・ファイルを表示できませんでした。(Everyplace Client failed to show the logfile for the data merge.)
- E3015** Everyplace Client はデータを集約できませんでした。(Everyplace Client failed to aggregate data.)
- E3016** Everyplace Client はプロパティ・ファイルを検出できませんでした。(Everyplace Client did not find the properties file.)
- E3017** Everyplace Client はプロパティ・ファイルをロードできませんでした。(Everyplace Client failed to load the properties file.)

Personal Information Management (PIM) 同期の戻りコード

Personal Information Management (PIM) 同期の戻りコードとその定義のリストについては、以下の説明を参照してください。

注: Personal Information Management (PIM) データ同期を実行すると、同期ログ・ファイルの最終行に、SyncML_RC = x のテキストが入れます。x は PIM 同期の戻りコード番号です。各戻りコードの意味を判別するには、以下の説明を参照してください。

SyncML_RC = 0

原因: SyncML は正常です。

ユーザー処置: アクションは不要です。

SyncML_RC = 1

原因: SyncML は誤っています。xml または wbxml エレメントではありません。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 2

原因: 無効な SyncML です。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 3

原因: 通信エラーです。

ユーザー処置: ネットワークに接続されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 4

原因: 誤ったサーバー名です。

ユーザー処置: ご使用のネットワーク・プロファイルの同期サーバー名が正しいことを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 5

原因: 無効な要求です。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 6

原因: SyncML がホスト名を解決できません。

ユーザー処置: 使用するホスト名が正しいことを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 7

原因: ソケット・エラーです。

ユーザー処置: ネットワークに接続されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 8

原因: 接続エラーです。

ユーザー処置: ネットワークに接続されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 9

原因: 同期が失敗しました。

ユーザー処置: ネットワークに接続されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 10

原因: サーバーが使用中です。

ユーザー処置: サーバーが使用中でないときに再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 11

原因: サーバーでレコードが見つかりません。

ユーザー処置: サーバーが使用中でないときに再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 12

原因: 同期コマンドが失敗しました。

ユーザー処置: 同期を再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 13

原因: スペース制約のためにメモリー不足です。

ユーザー処置: デバイスから不要なデータを除去して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 14

原因: リソース要求が存在しません。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 15

原因: サポートされるフィールドに誤った文字列があります。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 16

原因: 同期の試行がキャンセルされました。

ユーザー処置: 同期を再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 17

原因: 認証が失敗しました。

ユーザー処置: ご使用のユーザー名とパスワードが正しいことを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 18

原因: そのアクションは禁止されています。

ユーザー処置: このアクションは実行できません。別のアクションを実行するか、または詳細について、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 19

原因: 項目は既に存在します。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 20

原因: コマンドの形式が誤っています。

ユーザー処置: 詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 21

原因: 無効なパラメーターが指定されました。

ユーザー処置: 詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 22

原因: バッファが小さすぎます。

ユーザー処置: 詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 23

原因: サポートされないプロトコルです。SyncML Data Synchronization 1.0 および SyncML Device Management 1.1 のみがサポートされます。

ユーザー処置: 使用するサーバーのバージョンが、使用する Everyplace Client のバージョンと互換性があることを確認してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 24

原因: 必須データを取得できません。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 25

原因: 要求されたプロトコルの一部のセッション要件がインプリメントされていません。SyncML Data Synchronization 1.0 および SyncML Device Management 1.1 のみがサポートされます。

ユーザー処置: 使用するサーバーのバージョンが、使用する Everyplace Client のバージョンと互換性があることを確認してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 26

原因: アクションは実行されませんでした。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 27

原因: コマンドは許可されません。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 28

原因: 部分的に成功しました。

ユーザー処置: Pocket Outlook の制限を記述したログ内の警告を参照してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 29

原因: サーバーへの接続が失われました。

ユーザー処置: ネットワークに接続されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 30

原因: 低速同期ウィンドウがタイムアウトになりました。

ユーザー処置: 同期を再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

SyncML_RC = 31

原因: コマンドはリジェクトされました。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

エラー・メッセージ

Everyplace Client のエラー・メッセージ、その原因、およびその推奨ユーザー処置の詳細については、このセクションを参照してください。

- Everyplace Client のエラー・メッセージ
- WebCache のエラー・メッセージ
- Mobility Client のエラー・メッセージ

Everyplace Client のエラー・メッセージ

入力したパスワードが一致しません。入力と確認を再度行ってください。

原因: 入力したパスワードが一致しません。

ユーザー処置: パスワードが正しいことを確認して、パスワードを再入力してください。

パスワードが誤りです。現在のパスワードを再入力してください。

原因: パスワードが、検証中に拒否されました。

ユーザー処置: 元のパスワードが、セットアップ・パスワードと一致することを確認してください。

ユーザー ID またはパスワードが無効です。

原因: ログイン時に、無効な Everyplace ユーザー ID またはパスワードが入力されました。

ユーザー処置: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。再度ログインしてください。

アプリケーションの実行に失敗しました。

原因: Everyplace Client がアプリケーションを始動できませんでした。

ユーザー処置: アプリケーションがデバイスにインストールされていることを確認してください。

ログインに失敗しました。ログイン・ユーザー ID およびパスワードを確認してください。

原因: Everyplace Client が現行の Everyplace ユーザー ID およびパスワードでログインできませんでした。

ユーザー処置: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。再度ログインしてください。

回復不能なエラーが検出されました。

原因: Everyplace Client がログインできませんでした。

ユーザー処置: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。再度ログインしてください。

ソフトウェアの更新に失敗しました。(Software Updates Failed.)

原因: Everyplace Client がソフトウェア更新を取得できませんでした。

ユーザー処置: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

スケジュールされた同期に失敗しました。(Scheduled Sync Failed.)

原因: スケジュールされた同期中に Everyplace Client が失敗しました。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: ネットワーク・プロファイル接続を確認してください。

致命的エラーが発生したため、Everyplace Client をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード E3001 を報告してください。

原因: サービスの開始時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3002** を報告してください。

原因: Everyplace Client の初期化時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: wox.properties ファイルが存在して、壊れていないことを確認してください。wox.properties ファイルは、デバイスの WEA¥local ディレクトリーにあります。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3003** を報告してください。

原因: ブラウザーの開始時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: デバイス上のブラウザーが壊れていないことを確認してください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3004** を報告してください。

原因: Web エージェントの開始時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3005** を報告してください。

原因: 統合機能の初期化時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メールをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3006** を報告してください。

原因: 統合機能の開始時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メール・アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3007** を報告してください。

原因: 初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3008** を報告してください。

原因: 初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メール・アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3009** を報告してください。

原因: 前回の同期の検査で問題がありました。データ破壊の可能性があります。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: wox.properties ファイルが壊れていないことを確認してください。wox.properties ファイルは、デバイスの **WEA\local** ディレクトリにあります。

ユーザー処置 3: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3010** を報告してください。

原因: DB2 Everyplace の開始時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: デバイス上のオープンされている DB2 Everyplace アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3011** を報告してください。

原因: 同期をキャンセルできません。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メール・アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3012** を報告してください。

原因: プラグインを解放できません。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メール・アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3013** を報告してください。

原因: Everyplace ユーザー ID およびパスワードの取得時に、初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3014** を報告してください。

原因: 初期化に問題があったかデータが壊れています。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3015** を報告してください。

原因: データの集約で初期化に失敗しました。

ユーザー処置 1: デバイス上の Personal Information Management (PIM) と E メール・アプリケーションをすべてクローズしてください。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、**Everyplace Client** をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード **E3016** を報告してください。

原因: wox.properties ファイルが見つかりません。

ユーザー処置 1: wox.properties ファイルがデバイスにインストールされていることを確認してください。wox.properties ファイルは、デバイスの WEA¥local ディレクトリーにあります。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

致命的エラーが発生したため、Everyplace Client をシャットダウンする必要があります。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、エラー・コード E3017 を報告してください。

原因: wox.properties ファイルのロードで問題がありました。

ユーザー処置 1: wox.properties ファイルが存在して、壊れていないことを確認してください。wox.properties ファイルは、デバイスの **WEA\local** ディレクトリーにあります。

ユーザー処置 2: デバイスをリセットしてください。

接続エラーです。

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) が接続できません。

ユーザー処置 1: WECM 接続プロファイルを確認してください。

ユーザー処置 2: WECM ログを参照して、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

メモリーの割り振りに失敗しました。

原因: Everyplace Client がメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザー処置: デバイスのシステム設定でデバイスに十分な使用可能メモリーがあることを確認してください。

WebCache のエラー・メッセージ

WebCache のエラー・メッセージ、その原因、およびその推奨ユーザー処置の詳細については、以下の説明を参照してください。

WEBCACHE_ERR_OK_CANCELED = 99

原因: WebCache がメイン・ダイアログ・ウィンドウを作成できません。

ユーザー処置 1: ご使用のクリデンシャルを確認し、webcache_trace.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 2: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_OK_WITH_FAIL = 1

原因: WebCache がデータを送信または受信できません。

ユーザー処置 1: webcache_trace.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 2: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_INTERNAL = -1

原因: WebCache を初期化できません。

ユーザー処置 1: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 2: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_CONFIG = -2

原因: WebCache を構成できません。

ユーザー処置 1: WebCache 設定を確認し、構成してください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

WEBCACHE_ERR_USERAUTH = -3

原因: サーバーは認証が必要です。ログインできませんでした。

ユーザー処置 1: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードを確認してください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

WEBCACHE_ERR_SERVER = -4

原因: サーバーは認証が必要です。ログインできませんでした。

ユーザー処置 1: ご使用の Everyplace ユーザー ID とパスワードを確認してください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

WEBCACHE_ERR_SERVER_NOT_WEA = -5

原因: サーバー拡張機能はインストールされませんでした。

ユーザー処置 1: ご使用のサーバーに最新バージョンの WebSphere Everyplace Access がインストールされていることを確認してください。ご使用の WebSphere Everyplace Access Server の詳細については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 3: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_SERVER_VER = -6

原因: サーバー拡張機能はインストールされませんでした。

ユーザー処置 1: ご使用のサーバーに最新バージョンの WebSphere Everyplace Access がインストールされていることを確認してください。ご使用の WebSphere Everyplace Access Server の詳細については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 3: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_SERVER_INFO = -7

原因: サブレットと WPS の間の HTTP 状況コードを検索できませんでした。

ユーザー処置 1: 設定を確認してください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

ユーザー処置 3: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_BROWSER_URL = -8

原因: WebCache がブラウザを起動できませんでした。

ユーザー処置: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

WEBCACHE_ERR_BROWSER_PROCESS= -9

原因: WebCache がブラウザを起動できませんでした。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

WEBCACHE_ERR_INET_CONN = -10

原因: 無効なサーバーが指定されました。

ユーザー処置 1: ご使用のネットワーク・プロファイルのネットワーク・プロファイル設定が正しいことを確認してください。ネットワーク・プロファイルの設定については、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ユーザー処置 2: webcache*.txt ログ・ファイルから追加情報を参照してください。

Mobility Client のエラー・メッセージ

Mobility Client のエラー・メッセージ、その原因、およびその推奨ユーザー処置の詳細については、以下の説明を参照してください。

現時点では接続を確立できません。設定を確認しますか?

原因 1: ネットワーク接続が失われました。

原因 2: 誤ったサーバー・アドレスまたはポート番号を入力した可能性があります。

ユーザー処置 1: 「再試行」を押して同期を再試行するか、または「いいえ」を押して終了し、後で同期します。

ユーザー処置 2: 「はい」を押して設定を表示し、入力した情報が正しいことを確認します。

接続に失敗しました。サーバーと Mobility Client の構成が完了していません。(Server and Mobility Client configurations are incomplete.) お客様の Mobility Client 技術サポート担当者に連絡してください。(Please contact your Mobility Client technical support.)

原因: ご使用の WebSphere Everyplace Connection Manager サーバーがご使用の Mobility Client 接続をクローズしました。

ユーザー処置: 「OK」を押してエラー・ダイアログ・ボックスをクローズするか、または「ログを表示」を押して Mobility Client エラー・ログを表示します。詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

選択したプロファイルが無効または存在しないため、接続に失敗しました。プロファイルを切り替えますか?

原因: Mobility Client プロファイルが削除されました。

ユーザー処置: 「はい」を押して構成パネルをオープンし、新規プロフィールを選択するか、または「いいえ」を押して、新規プロフィールを選択しないで終了します。

Mobility Client Toolkit ライブラリーをロードできません。

原因: Mobility Client がツールキット・ライブラリーを見つけることができません。

ユーザー処置: Mobility Client ツールキットはインストールされていますが、.dll のロードで問題があります。組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

Mobility Client アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) をオープンできません。(Unable to open the Mobility Client Application Programming Interface (API).)

原因: Mobility Client コアが、要求アプリケーションの API をオープンできません。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

パスワード変更の試行中に eErrBadSate メッセージを受け取りました。

原因: 既にログインまたはログアウトしているときに、パスワードを変更しようとしています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

パスワード変更の試行中に eErrFailed メッセージを受け取りました。

原因: Mobility Client が、WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) サーバーがユーザーのパスワードを変更できないことを検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

Mobility Client は、アクティブ・インターフェースをクローズしました。

原因: 現行のアクティブなインターフェースは Mobility Client によってシャットダウンされました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

Mobility Client は、接続マネージャーからログオフしました。

原因: Mobility Client が、ユーザーがログオフすることを強制しています。

ユーザー処置: このエラー・メッセージは、次の幾つかの理由の 1 つを示します。ゲートウェイをシャットダウン中、ソフトウェア更新を処理中、またはデバイスがクレードルに置かれている。詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に eErrNoActiveInterface メッセージを受け取りました。

原因: アクティブなネットワーク・インターフェースが、ログインの試行中に失われました。

ユーザー処置: ネットワーク・アダプターを検査して、ログインを再試行してください。

ログイン試行中に eErrBadSate メッセージを受け取りました。

原因: 既にログインしているときに、ログインしようとしてしました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrInvalidConfiguration** メッセージを受け取りました。

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) サーバーが、クライアントの構成設定値がサーバーの構成設定値と一致しないことを検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrTimeout** メッセージを受け取りました。

原因: ログインの試行中に、Mobility Client がタイムアウトになりました。

ユーザー処置: ログインを再試行してください。問題が解決しない場合、詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrProtocol** メッセージを受け取りました。

原因: Mobility Client がプロトコル・エラーを検出しました。

ユーザー処置: 詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrGatewayDown** メッセージを受け取りました。

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) が、ログイン中にシャットダウンしました。

ユーザー処置: ゲートウェイが再始動するのを待って、ログインを再試行してください。

ログイン試行中に **ErrAccountDeleted** メッセージを受け取りました。

原因: ユーザー・アカウントが削除されました。

ユーザー処置: 詳しくは、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrAccountExpired** メッセージを受け取りました。

原因: ユーザー・アカウントの有効期限が切れています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に **eErrFailed** メッセージを受け取りました。

原因: ユーザー・アカウントの有効期限が切れています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

ログイン試行中に不明なエラー・メッセージを受け取りました。(Received unknown error message while attempting to log in.)

原因: Everyplace Client が、認識していない Mobility Client からメッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

インターフェースのオープンの試行中に **eErrModemInitFailed** メッセージを受け取りました。

原因: モデム初期設定の問題のために、Mobility Client がネットワーク・インターフェースをオープンできませんでした。

ユーザー処置: ご使用のモデムが正しく構成されていることを確認して、再試行してください。

RADIUS 認証の試行中に **eErrBadState** メッセージを受け取りました。

原因: 既にログインしているときに、認証で RADIUS ログインを行おうとしました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

RADIUS 認証の試行中に eErrNotInitialized メッセージを受け取りました。

原因: Mobility Client が、RADIUS 認証を試行中に無効な状態を検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

RADIUS 認証の試行中に eErrInvalidParameter メッセージを受け取りました。

原因: Mobility Client が、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 呼び出しでアプリケーションが無効なパラメーターを使用したことを検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

RADIUS 認証の試行中に eErrMemoryFailure メッセージを受け取りました。

(Received eErrMemoryFailure message while attempting Radius authentication.)

原因: このログインの試行をサポートするには、使用可能メモリーが少なすぎます。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

RADIUS 認証の試行中に eErrFailed メッセージを受け取りました。 (Received eErrFailed message while attempting Radius authentication.)

原因: Mobility Client が一般障害メッセージを検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

RADIUS 認証の試行中に不明なエラー・メッセージを受け取りました。 (Received unknown error message while attempting Radius authentication.)

原因: Everyplace Client が、認識していない Mobility Client からメッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrFailed を受け取りました。Mobility Client 操作は失敗しました。

原因: Mobility Client が一般障害メッセージを検出しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrMemoryFailure を受け取りました。操作を完了するために十分なメモリーを割り振ることができませんでした。

原因: この操作をサポートするには、使用可能メモリーが少なすぎます。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrCoreNotStarted を受け取りました。コアの Mobility Client が開始されていません。コアの Mobility Client を開始し、操作を再試行してください。

原因: Everyplace Client が、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) をオープンする前に、Mobility Client コアにアクセスしようとしていました。

ユーザー処置: コアの Mobility Client を開始し、操作を再試行してください。

eErrNotInitialized を受け取りました。アプリケーションは、**eOpenApi** を呼び出すことにより **API** を初期化する必要があります。

原因: Everyplace Client が、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) をオープンする前に、Mobility Client コアにアクセスしようとした。

ユーザー処置: コアの Mobility Client を開始し、操作を再試行してください。

eErrNotSupported を受け取りました。この操作は **Mobility Client** またはネットワーク・デバイスでサポートされていません。

原因: アプリケーションが、このバージョンの Mobility Client でサポートされない操作を行おうとした。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrModemInitFailed を受け取りました。モデムまたはネットワーク・デバイスの初期化が失敗しました。

原因: モデム初期設定の問題のために、Mobility Client がネットワーク・インターフェースをオープンできませんでした。

ユーザー処置: ご使用のモデムが正しく構成されていることを確認して、再試行してください。

eErrTooManyInterfaces を受け取りました。オープンされているインターフェースの最大数に達しました。

原因: Mobility Client で許可されたインターフェースの最大数を超過しました。

ユーザー処置: 一部のインターフェースをクローズして、再試行してください。

eErrInvalidConfiguration を受け取りました。関数に指定された接続名が見つかりませんでした。

原因: Mobility Client で許可されたインターフェースの最大数を超過しました。

ユーザー処置: 一部のインターフェースをクローズして、再試行してください。

eErrBadState を受け取りました。正しい状態でない時にログオン/ログオフが試行されました。

原因: 既にログインしているときにログイン、または既にログアウトしているときにログアウトしようとした。

eErrNdisNotConfigured を受け取りました。**NDIS Mobility Client** インターフェースがインストールされていないか、適切に構成されていません。

原因: NDIS Mobility Client インターフェースがインストールされていないか、適切に構成されていません。

ユーザー処置: Mobility Client の資料を参照してください。

eErrNoActiveInterface を受け取りました。現在、アクティブ・インターフェースとして設定されているインターフェースはありません。

原因: アクティブなインターフェースが存在しないときに、操作を行おうとした。

ユーザー処置: アクティブなインターフェースをオープンして、再試行してください。

eErrTimeout を受け取りました。操作がタイムアウトになりました。

原因: ログインまたはアプリケーションをオープンしようとしたときに、タイムアウト・メッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrProtocol を受け取りました。WebSphere Everyplace Connection Manager との通信中にプロトコル・エラーが発生しました。(Received eErrProtocol: A protocol error was encountered while communicating with the WebSphere Everyplace Connection Manager.)

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager との通信中にプロトコル・エラーが発生しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrGatewayDown を受け取りました。WebSphere Everyplace Connection Manager が使用不可です。(Received eErrGatewayDown: The WebSphere Everyplace Connection Manager is unavailable.)

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager が使用不可です。

ユーザー処置: WebSphere Everyplace Connection Manager が使用可能なときに、操作を再試行してください。

eErrAccountDeleted を受け取りました。Mobility Client アカウントが WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) 構成から削除されています。(Received eErrAccountDeleted: The Mobility Client account has been deleted from the WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM) configuration.)

原因: ユーザーの WECM アカウントが削除されました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrAccountUnknown を受け取りました。Mobility Client アカウントが Everyplace Connection Manager (WECM) に登録されていません。(Received eErrAccountUnknown: The Mobility Client account is not registered with the WebSphere Everyplace Connection Manager (WECM).)

原因: ユーザー・アカウント ID が、WECM サーバーによって認識できません。

ユーザー処置: 再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrOperator を受け取りました。管理者が WebSphere Everyplace Connection Manager からの Mobility Client のログオフを強制しました。(Received eErrOperator: The administrator forced the Mobility Client off of the WebSphere Everyplace Connection Manager.)

原因: 管理者が WebSphere Everyplace Connection Manager からの Mobility Client のログオフを強制しました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrVersion を受け取りました。Mobility Client と WebSphere Everyplace Connection Manager のバージョンに互換性がありません。(Received eErrVersion:

The Mobility Client and WebSphere Everyplace Connection Manager versions are incompatible.)

原因: Mobility Client と WebSphere Everyplace Connection Manager のバージョンに互換性がありません。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrAccountLocked を受け取りました。WebSphere Everyplace Connection Manager 上のユーザー・アカウントがロックされています。(Received **eErrAccountLocked: The user account on the WebSphere Everyplace Connection Manager is locked.**)

原因: WebSphere Everyplace Connection Manager 上のユーザー・アカウントがロックされています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrAccountExpired を受け取りました。接続マネージャー上のユーザー・アカウントの有効期限が切れています。

原因: 接続マネージャー上のユーザー・アカウントの有効期限が切れています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrModemConnectFailed を受け取りました。モデムがネットワークに接続できませんでした。

原因: モデムがネットワークに接続できませんでした。

ユーザー処置: ご使用のモデムが正しく構成されていることを確認して、再試行してください。問題が解決しない場合は、組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrAddressNotAvailable を受け取りました。接続マネージャーの DHCP プールには使用可能な IP アドレスがもうありません。

原因: 接続マネージャーの動的ホスト構成プロトコル (DHCP) プールには使用可能な IP アドレスがもうありません。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrAddressInUse を受け取りました。接続マネージャー上でこのクライアントに割り当てられたアドレスは、現在、別のクライアントによって使用されています。

原因: 接続マネージャー上でこのクライアントに割り当てられたアドレスは、現在、別のクライアントによって使用されています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrDestinationInvalid を受け取りました。ネットワークが範囲外である可能性があります。

原因: ネットワークが範囲外である可能性があります。

ユーザー処置: デバイスが範囲内になるのを待って、再試行してください。

eErrBufferTooSmall を受け取りました。この関数に割り当てられているバッファが小さすぎます。

原因: この関数に割り当てられているバッファが小さすぎます。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrIdleTimeout を受け取りました。接続アイドル時間が接続マネージャーで設定されているアイドル・タイムアウトを超過したため、接続マネージャーが接続を終了しました。

原因: 接続アイドル時間が接続マネージャーで設定されているアイドル・タイムアウトを超過したため、接続マネージャーが接続を終了しました。

ユーザー処置: 再度ログインしてください。

eErrComPort を受信しました。これは **Mobility Client** からの戻りコードです。

原因: 接続アイドル時間が接続マネージャーで設定されているアイドル・タイムアウトを超過したため、接続マネージャーが接続を終了しました。

ユーザー処置: 再度ログインしてください。

eErrInitUnknown を受信しました。これは **Mobility Client** からの戻りコードです。

原因: Everyplace Client が、Mobility Client 操作を実行中に eErrInitUnknown メッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrLoggedOnAgain を受信しました。ユーザーはすでに別のロケーションにログオンしています。

原因: 別のロケーションでログインしました。

ユーザー処置: アクティブな Mobility Client セッションをクローズして、1つのロケーションでログインしてください。

eErrOptionsMismatch を受信しました。ゲートウェイとクライアントが異なるオプションを使用して構成されています。

原因: ゲートウェイとクライアントが異なるオプションを使用して構成されています。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrMissingPrerequisite を受信しました。これは **Mobility Client** からの戻りコードです。

原因: Everyplace Client が、Mobility Client 操作を実行中に eErrMissingPrerequisite メッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrMaintenanceRequired を受信しました。これは **Mobility Client** からの戻りコードです。

原因: Everyplace Client が、Mobility Client 操作を実行中に eErrMaintenanceRequired メッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

eErrMaximumErrorNumber を受信しました。これは **Mobility Client** からの戻りコードです。

原因: Everyplace Client が、Mobility Client 操作を実行中に eErrMaximumErrorNumber メッセージを受け取りました。

ユーザー処置: 組織の技術サポート担当者にお問い合わせください。

付録 A. XHTML + Voice の使用

XHTML +Voice (X+V) は、マルチモーダル Web ページのマークアップ言語です。Everyplace Client は、X+V で作成されたマルチモーダル・アプリケーションをサポートしています。X+V のプレビューおよびレビュー情報を、<http://www.ibm.com/pvc/multimodal> からダウンロードできます。

付録 B. 著作権および商標

著作権

商標

著作権

© Copyright IBM Corporation 1994, 2004. All rights reserved.

(C) Copyright IBM Japan 2004.

IBM Web サイトは別の所有権および著作権表示が付されている場合がありますが、その場合には、これにしたがっていただきます。

商標

DB2、Everyplace、IBM、Lotus、Lotus Domino、Passport Advantage、Sametime および WebSphere は、IBM Corporation の商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アプリケーションの同期 20
 アプリケーション・レベルの同期 21
 カテゴリ・レベルの同期 21
 初期同期 20
 スケジュール済み同期の構成 22
アプリケーション・レベルの同期
 実行 21
インストール、Everyplace Client の
 DMS インストールの完了 3
インストールの正常終了の確認
 Everyplace Client のインストール 7
エラー・メッセージ
 Everyplace Client 39
オフライン・フォーム
 操作 27

[カ行]

カテゴリ
 削除 18
 新規作成 18
 編集 18
カテゴリの削除 18
カテゴリの新規作成 18
カテゴリの編集 18
カテゴリ・レベルの同期
 実行 21
管理、Sametime Connect 31
完了、DMS インストールの
 インストール 3
管理用タスクの完了 24
 オフライン・フォーム 27
 データベース同期の構成 26
 トレース 25
構成
 Everyplace Client セキュリティー 13
構成、接続設定
 Sametime Connect 30

[サ行]

実行
 アプリケーション・レベルの同期 21

実行 (続き)
 カテゴリ・レベルの同期 21
準備、Everyplace Client の構成 9
ショートカット
 個別設定 19
 除去 19
 追加 19
ショートカットの除去 19
ショートカットの追加 19
初期同期
 アプリケーション 20
操作
 アプリケーションの同期 20
 エラー・メッセージ 39
 オフライン・フォーム 27
 カテゴリ
 カテゴリ 17
 管理用タスク 24
 ショートカット 19
 ソフトウェア更新 24
 データの置換 24
 テーマ 19
 トラブルシューティング 35
 トレース 25
 ネットワーク・プロファイル 22
 戻りコード 35
 E メール 22
 Everyplace Client のアンインストール 33
 Sametime Connect 28
ソフトウェア更新 24

[タ行]

データの置換 24
データベース同期
 構成 26
テーマ
 選択 19
同期
 アプリケーション・レベル 21
 カテゴリ・レベル 21
同期設定
 構成 10
同期設定の構成 10
トレース 25

[ナ行]

ネットワーク・プロファイル
 削除 23

ネットワーク・プロファイル (続き)
 作成 23
 操作 22
 編集 23
ネットワーク・プロファイルの削除 23
ネットワーク・プロファイルの作成 23
ネットワーク・プロファイルの編集 23

[ハ行]

始めに i
 サーバーの要件 2
 前提条件 1
 デスクトップの要件 1
 デバイスの要件 2
変更、Sametime Connect 接続状況 32
編集、Sametime Connect 状況メッセージ 32

[マ行]

戻りコード
 Everyplace Client 35

[ヤ行]

ユーザー・インターフェース
 理解 15
ユーザー・インターフェースについての理
 解 15
要件
 サーバー 2
 デスクトップ 1
 デバイス 2
 Sametime Connect 29
用語
 Sametime Connect 29

E

E メール
 操作 22
Everyplace Client
 アンインストール 33
 インストール 2
 エラー・メッセージ 39
 関連資料 8
 構成 9
 構成の準備 9
 使用 15

Everyplace Client (続き)
デスクトップからのアンインストール
33
デバイスからのアンインストール 33
同期設定の構成 10
トラブルシューティング 35
戻りコード 35
Mobility Client の構成 11, 12
Everyplace Client セキュリティー
構成 13
Everyplace Client のアンインストール 33
デスクトップからの 33
デバイスからの 33
Everyplace Client のインストール 2
インストールの正常終了の確認 7
InstallShield の使用 4
Everyplace Client の関連資料 8
Everyplace Client の構成 9
スケジュール済み同期 22
データベース同期 26
メモリー 13

Everyplace Client の構成 (続き)
Sametime Connect 30
Everyplace Client の使用 15
Everyplace Client のトラブルシューティン
グ 35
Everyplace Client メモリー
構成 13

I

InstallShield
Everyplace Client のインストール 4

M

Mobility Client
構成 11, 12
パスワードの変更 12

Mobility Client の構成 11

S

Sametime Connect
使用 28
状況メッセージの編集 32
接続状況の変更 32
接続設定の構成 30
メッセージを送信中 31
ユーザーおよびグループの管理 31
要件 29
用語 29
ログイン 30
Sametime Connect の使用 28
Sametime Connect へのログイン 30

X

XHTML + Voice の使用 55